

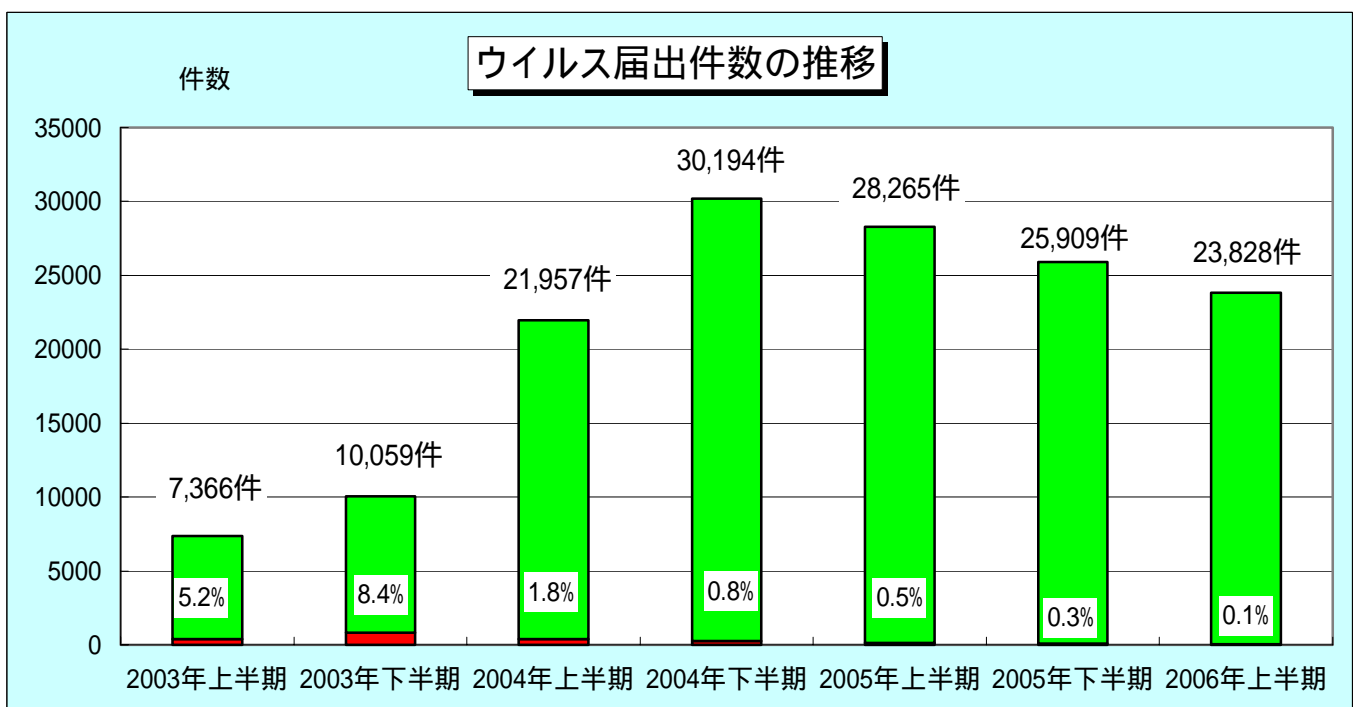
2006年上半期[1月～6月]コンピュータウイルス届出状況

独立行政法人 情報処理推進機構(略称:IPA 理事長:藤原 武平太)は、2006年上半期[1月～6月]のコンピュータウイルス届出状況をまとめました。

1. 届出件数

2003年から増加傾向にあった届出件数は、2004年下半期の30,194件をピークに減少に転じました。2006年の上半期は23,828件と、2005年下半期の25,909件から減少となりました。

下記グラフは、IPAセキュリティセンターが受け付けた半期(6ヶ月)ごとの届出件数の推移を示したものです。

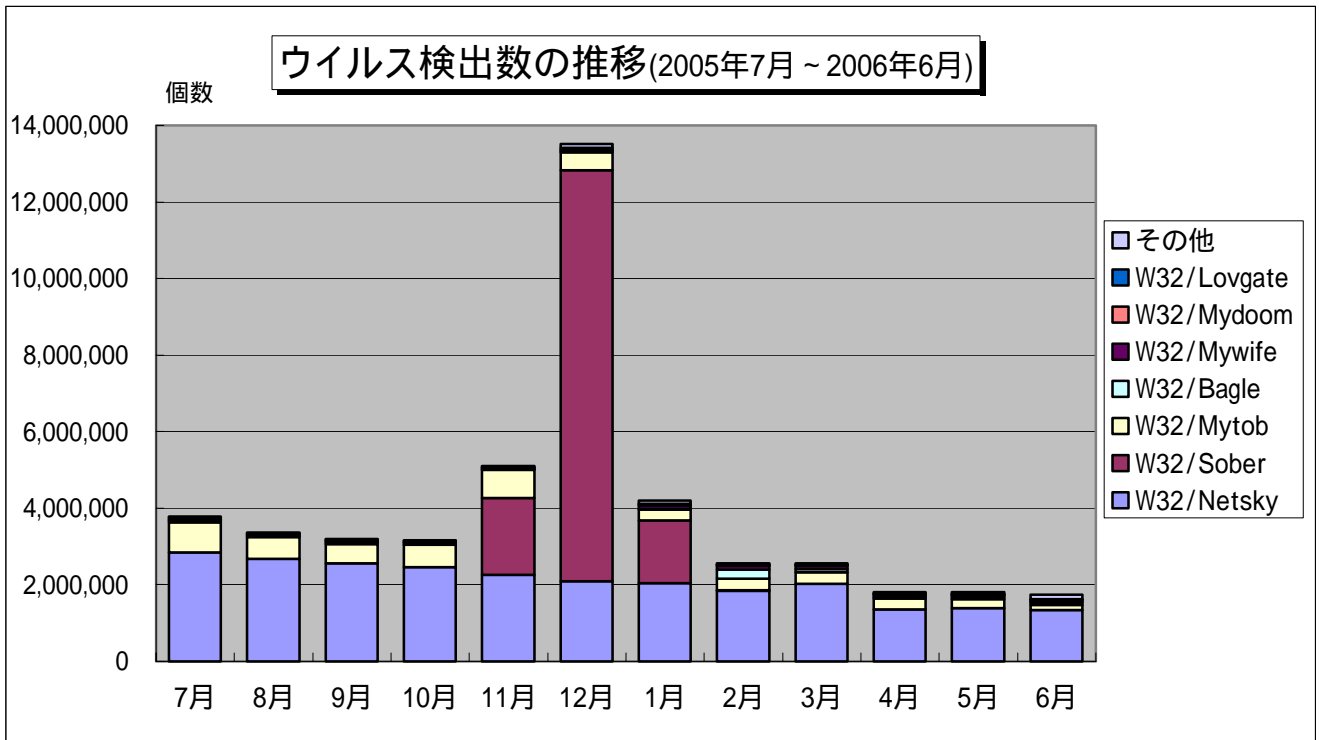


図中の%表示は感染被害に遭った割合。

2. ウイルス検出数の推移

1年間の検出数の推移を見ると、全体としては減少の傾向にあります。ただし、2005年11月に出現したW32/Soberの亜種が大量のウイルスメールを発信したため、1千万を超える検出数となっています。

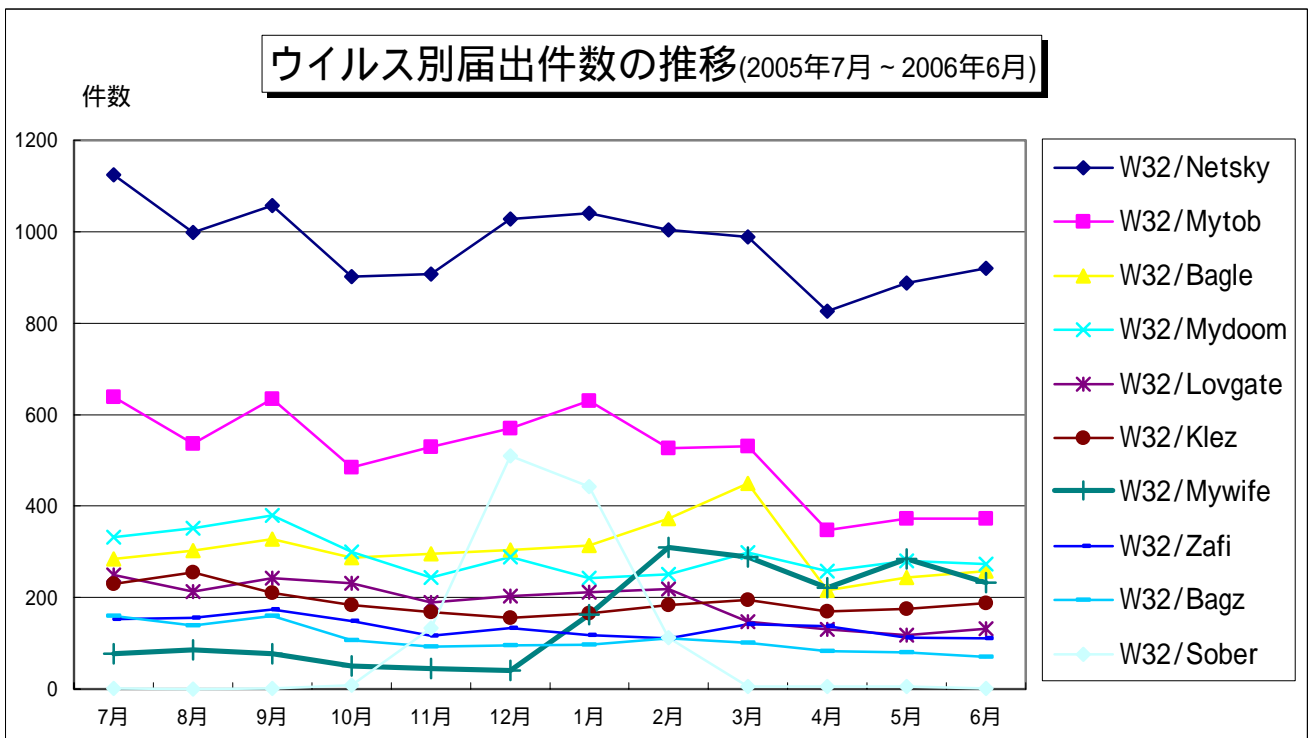
W32/Soberの亜種を除くと、依然としてW32/Netskyが総検出数の大多数を占めている状況が継続しています。



3. ウィルス別届出件数

IPA に届けられたウィルス別届出件数の推移を見ると、W32/Netsky が突出している状況が伺えます。続いて、W32/Mytob となっていますが、こちらは減少傾向にあります。

W32/Netsky が継続して多数の届出が寄せられている状況から、感染していることに気付かずに、ウィルスメールを発信しているユーザが存在していると推測されます。定期的にウィルス対策ソフトを利用して、ウィルスチェックを日頃から実施するようにしてください。



お問い合わせ先
 独立行政法人 情報処理推進機構 セキュリティセンター
 花村 / 加賀谷 / 宮本
 Tel:03-5978-7527 Fax:03-5978-7518 E-mail:isec-info@ipa.go.jp